

セイトカアワダチソウを駆除、菜花が咲く景色を目指すえちぜん鉄道沿線—あわら市四温泉2丁目



セイトカアワダチソウ

セイトカアワダチソウは、北米原産のキク科の多年草で、2〜3メートルまで成長し、秋に黄色い花を咲かせ、1株に5万個もの大量の種子をつけるなど繁殖力が強く、周囲の植物の成長を阻害する物質を分泌する

一斉駆除 在来種守ろう

4日、三国R.C えち鉄沿線1.8キロで実施

えちぜん鉄道(えち鉄)は4日、えちぜん鉄道水原駅(坂井市三国町)―あわら湯のまち駅(あわら市)の沿線で外来雑草セイトカアワダチソウを駆除、菜花の種を植え在来種を守る取り組みを始める。掛け、同R.Cの奉仕事業の1環として4日から始まる。8ヶ所を分けて駆除作業の「グリーンアップ」を促す。駆除した後は、餅江R.Cから提供を受けた「えちえ菜花」の種をまき、来春の開花を目指している。

(2011年9月1日奥越坂井面)

挑戦! NIE

新聞を読んで考えてみよう

①皆さんの周りにセイトカアワダチソウが咲いている所はありますか。

②セイトカアワダチソウが増えると、なぜいけないのでしょうか。

③どんな外来種があるか、調べてみましょう。

この記事に登場するセイトカアワダチソウのように、外国から日本に入ってきた植物や動物は、もともと日本で育っていた動植物を減らして

しまう危険性があります。私たちは、どんなことに気を付けたらよいのでしょうか。(竹森雅実・福井新聞社NIEアドバイザー)

